

公益社団法人私立大学情報教育協会
2020年度第2回情報教育研究委員会合同会議議事記録
情報教育研究委員会、情報リテラシー・情報倫理分科会、分野別情報教育分科会

I. 日 時：令和2年5月19日（火） 17：00～19：00

II. 場 所：Microsoft Teams ネット会議室

III. 参加者：斎藤委員長、牧野委員、笈委員、大原アドバイザー、玉田主査、児島主査、高岡委員、
和田委員、金子委員、中西委員、本村委員、角田委員、阿部委員、石川委員、
渡辺アドバイザー、光井アドバイザー
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. 情報活用教育コンソーシアムのプラットフォーム構築について

(1) 初年次向け反転授業を導入したビデオ授業ガイド

- ・ ガイドラインの背景、到達目標ABCの解説について、以前の資料を用いたビデオガイドの試作が提示され、ガイドラインの更新部分の修正指摘を含めて以下の意見があった。
- ・ 背景では、授業時間が取れない中で情報活用能力を育成するために3コマ程度から反転授業活用の提案をしていることなどを説明し、到達目標のポイントを意識して説明する授業ガイドにする必要がある。
- ・ 大きく変更した到達目標Cのデータサイエンス・AIに向けた視点を強調するとともに、到達目標Bの一部も変更したことの説明も含めたい。説明は、変更した点やポイントを強調したものにしてはどうか。
- ・ 委員からは、説明のポジショニングが不明確に感じた。
- ・ まとめのスライドがあると聞く側が整理できる。
- ・ 教員にどのような意識を持たせたいのかのイメージで、例えば、高大接続で大学が学生をのぼすことなど、危機感へのアピールが必要等の意見・感想があった。
- ・ 反転ビデオ教材・ワークシート・授業シナリオの紹介についてのビデオ説明は、説明の意図として「例えばこのように作成してはどうでしょうか」の提案形式で紹介し、教員がシナリオを考えられるように説明してはどうか。
- ・ SDGsは試行錯誤をして答えが出ないテーマであり、データを調べて活用する形も良いが、基準通りに進めれば答えが出るのではなく、イノベーションを意識した場合は、より深堀をさせるような流れで考えても良いのではないか。

(2) 到達目標Cのビデオ教材の例示

- ・ 設定レベルは十分な知識がないことを想定し、素人目線イメージで説明してはどうか。
- ・ 学生の質問に説明する形のビデオを作成してはどうか。作成方法はコロナ感染予防の観点から、学生にZoomで参加してもらい録画する方法を検討することにしてはどうか。

(3) 専門科目と連携した情報活用教育のビデオ運営ガイド

- ・ 昨年度紹介した授業モデルについて、汎用性を持たせた説明ビデオとしたい。
- ・ 4年間で情報活用能力を身につけさせるため、情報を使う訓練の段階を、専門科目の授業の中に工夫して織り込み、体験をさせてみることの一例として、授業内容の説明より、どのようなところで情報を理解・利用させるのかを話してはどうか。
- ・ 授業モデルは、シナリオ作成部分を中心に、ループリックまでは含めないことにした。

V. 今後のスケジュール

今回は、6月26日（金）17時から合同会議を開催し、①初年次向け反転授業を導入したビデオ授業ガイド、②初年次向けビデオ教材の例示、③専門科目と連携した情報活用教育のビデオ運用ガイドについて、研究を進める予定にしている。